

★シカゴ通信②ヘイトより偏見の中の静かな日常

有吉須美人

日本のニュースでアメリカのアジア系住民に対する暴力事件が、急増する「ヘイトクライム」として取り上げられ始めたのは、今年に入ってからだろうか。去年の後半は、アフリカ系への構造的な差別に対するBLM運動で盛り上がった、その線上で「アジア系（中国を中心に東・東南アジア）差別」が注目されたように思う。発端はやはりネットの動画だ。防犯カメラの映像がニュースで流され、こちらでは去年からBLMに混じってポツポツとSNSで拡散されていた。NYやカリフォルニアのチャイナタウン付近で、年配のアジア系の通行人がいきなり殴られたり押し倒されたりするのを見ると、同じアジア人としてショックで腹立たしく、被害者のことを思うと気の毒で許せない。私の家族も一時、外を歩くときは普段より周りに気を配った。

アジア系ヘイトクライム激増の中身は

そんな中、今年の3月、在シカゴ日本総領事館から「アジア系市民に対する嫌がらせ等に関する注意喚起」のメールが届いた。いくつかのヘイトクライムやハラスメント（嫌がらせや暴言）の実例と共に、関係団体によるアジア系市民への被害調査の報告を、『…シカゴを含む全米の16都市を対象に行った調査において、アジア系市民が被害者となるヘイトクライムは2019年が49件だったのに対して、2020年は122件に激増し…』と紹介して、在留邦人に警戒を促している。しかし、ヘイトクライムとして事件化されたのは1都市換算で月に一件未満と少なく、激増したからといって、生々しい暴行の映像を見たときのような危機意識は嵩じない。メディアがソースとしてよく引用する“Stop AAPI HATE”も、アジア系へのヘイトクライム関連事案として4,000件近い数字を挙げているが、調査を始めたのは去年3月からで、比較となる母数や基準値がなくヘイトの増えた実態は判りにくい。今まで通報されなかったことがこれを機に掘り起こされたり、些細な件でも「言葉狩り」のように過剰な計上をされたかもしれないからだ。

もちろん、日本で衝撃的に伝えられる「増加するアジア系に対するヘイトクライム」を、数字から矮小化するつもりは毛頭ない。コロナ禍で制限される鬱屈した生活やトランプの煽り発言などから、中国を敵視して結果的にアジア系住民へのハラスメントやヘイトクライムの増すことは予想できたし、実際に深刻な被害に遭う人は増えた。ただ、シカゴで暮らす者として、日本で報道されるようなヘイトクライムがこの一年で「激増」したという実感は湧かない。

“Stop AAPI HATE” の調査報告の 60% はカリフォルニアや NY のもので、被害数はアジア系の人口割合に比しているのだろうし、シカゴ圏に約 11 万の中国系アメリカ人が住むといっても NY の 15% に過ぎない。それでもチャイナタウンは全米 4 番目の規模であり、郊外に巨大なアジア系スーパーは点在し、あちこちで中国・韓国・日本・ベトナム・モンゴルなどの人々を目にする、そのどこからも深刻なアジア系へのヘイトクライムのニュースが流れてこないのだ。

アジア系コミュニティーでの小さな抗議集会は時折りあったのだろうが、ローカルニュースでの扱いは単発で、アジア系スーパーなどでデモの予定やスローガンなどを表すチラシやステッカーを見ることはない。フェイスブックやツイッターなどの SNS ではトランプや BLM 運動、コロナ対策などの是非で賑わった 2020 年だったが、ヘイトクライムが知られるようになった今年になって、“Stop Asian Hate” に関連する支持表明をカバーやプロフィールに使っている人はほとんど目に付かない。街の雰囲気として、BLM のように多数の市民が参加する大きな運動に広がる機運は窺えなかった

出身はどこ？と執拗に問う

一つには、アジア系は家庭やそれぞれのコミュニティーで出自の言葉を使用するイメージから、「外国人(移民)視」される傾向にあるためではないだろうか。例えばアメリカ生まれで英語がネイティブであったとしても、初対面の挨拶の中で” Where are you from ? (出身国への興味として)” と問われるのは大抵アジア系だ。下のリンクの動画(字幕・翻訳付き)を観てほしい。出身国を執拗に問われたアメリカ生まれの韓国系女性に同様の質問を返され、それを白人男性が「いや、ボクは普通のアメリカ人だよ」と答えるシーンが象徴的だ。

<https://labs.cybozu.co.jp/blog/akky/2013/05/what-kind-of-asian-are-you/>

単なる暴力事件かヘイトクライムかは判別しにくい面もあり、すべてがコロナ禍起因の「ヘイト激増」と煽られるのには違和感を覚える。動画のような些

細な偏見から、様々な差別、嫌がらせ、白人層のみならずアフリカ系からも見下される中で静かな日常を送っているのが、ここに住む私たちアジア系住民なのである。

有吉須美人 近代音楽のルーツと呼ばれるブルースの本場、シカゴを拠点にあ活動するピアニスト。2017年にはアジア人として初めて「シカゴ・ブルースの殿堂」入りを果たした。

(つづく)